

何が釣れるかお楽しみ 魚種多彩! 南房のコマセ五目

南房江見港出船 撮影●本誌編集部

▼タックルは全長2メートル前後7:3調子のライトゲーム竿にPE3号を巻いた小型電動リールの組み合わせ

▲釣り場は江見～和田沖の水深25～90メートル

★当日最も多く釣れたキダイ。食いが立つとダブル、トリプルで掛かってくる

▼船宿仕掛けはイサキ釣り用ハリス1.5号のカラーバリ仕様、五目釣りはハリス3号の空バリ仕様の2タイプ

▲コマセカゴはFLサイズ、オモリ60号。コマセはアミ、付けエサはオキアミ(各自持参する)



▲第二網丸では、イサキ、五目狙いともにタナ取りは底から行う

多様な魚が気軽に狙えるコマセ五目は、南房を代表する釣り物。取材した江見港の第二網丸は、早朝にイサキを狙い、土産を確保したら沖の五目釣りへ転じるスタイルで出船中。イサキは江見沖の水深25メートル前後で25センチ前後が釣れており、五目釣りは和田沖の水深50～90メートル前後とやや深場を狙い、ハナダイやキダイ、マハタ、ヒラメ、アマダイ、カイワリ、カワハギ、アジ、サバ、カサゴ、メバルなど多彩に釣れている。当日も船中10目以上を数え、「色いろな魚が食べられますし、何が釣れるのかわからないのも魅力です」とお客さんたちも大満足。にぎやかなクーラーを指して楽しんでみてはいかがだろう。(詳細は48ページ参照)

●南房江見港 第二網丸・大川 浅雄船長



▲五目釣りはコマセを数回に分けて振り、底からハリス分巻き上げて待つ



▶水深80～90メートル前後ではアマダイも釣れる



◎ハナダイとキダイの一荷



▲キダイは平均25センチ前後、当日は最大35センチ級も上がった

◀カイワリは塩焼きにする絶品

▶アヤマカサゴも交じった



▲取り込みはハリスをたぐって抜き上げる



▲30センチ級のカワハギを釣り上げた太田さん
◀トゴツメバルとキダイのダブル
▶良型アジもよく釣れた



▲イサキのアベレージは25センチ級



◀▲ヒラメ、マハタともに付けエサのオキアミに食ってきた
▶アタリがなければ誘いを入れるのも有効

